

第3回上士幌町総合戦略検証会議 質疑等概要（6/19開催）

（質問の挙手はなく、議長（竹中委員長）より、各委員に意見を求めた。）

長谷川) 昨年の中頃、陸別町で人口が増加していたが年末には大幅に減少となった。

増加要因の分析等がないとこのような結果を招くこととなる。単に増加を喜ぶのではなく、要因を把握し対応が必要だと思われる。

町長) 転入者からのアンケートを取ってデータを蓄積している。今後の戦略のための貴重なものであると解している。調査なくして戦略は立てられないと考える。

小林) 「定住人口」や「交流人口」があるが、先日あるパネルディスカッションの際に講師から「関係人口」という言葉を聞いた。「定住」でもない「交流」でもない立場の「関係人口」が戦略を支える根っこになるのではと考える。ふるさと納税の追い風が弱まる可能性があるため、上士幌町の商品がふるさと納税に頼らずとも外に出る仕掛けが必要であり、ブランド作りが重要であろう。

町長) お試し暮らし経験者の10%が移住に結びついている。このことからもお試し暮らしは重要な取組みである。あわせて、まずは上士幌町を知ってもらうことが入口となる。

福田) 商店経営者の高齢化と後継者不足により、業種そのものがなくなる恐れがある。起業支援も重要な取組み。

小寺) 木質バイオマスボイラー導入に関して、材料調達が難しいことに合せ設備への補助がなく断念することは残念である。

体力の部分で、中学生男子の反復横跳びの能力が低い要因は何か？

中田) (林対協の立場から) 戦略策定時より化石燃料の調達価格が定額となるなどのことも判断の理由であり、今後も諸条件が変わる見込みがないため導入取りやめとなった。晩成温泉（大樹町）がボイラー導入しているが経営をかなり圧迫しているとも聞いている。

関根) 体力・学力については、学年によって大きく差異があり毎年結果は変動すると思われる。運動能力が著しく低いとは見受けられないが、要因（反復横跳び）については分析してみたい。

柚原) 介護職員の担い手不足が深刻な問題である。労働環境が厳しく若い(高校生等)が定着しない。国は外国人の担い手育成を目指しているが、受入れにあたっては多額の経費を要することから法人として安易に受入れも難しい。

川野) 認定こども園が定員を超えそうだと聞いているが、新たに設置する等の考えは?

町長) 待機児童はつくらない方針である。何らかの対応を検討する。

鈴木) 商店街の担い手不足深刻。チャレンジショップの早期整備も必要では?(先日のまちづくり町民説明会でも参加者意見があった)

森) 公共施設整備の考え方としては、2040年を見据えて進めてきている。短期成果主義により成果や数値を重視しすぎている(全国的に)傾向がある。現場で見聞きしている声などを行政として蓄積し、今の世代だけではなく後世に伝える必要がある。今の子ども達が父さん、母さん、じいちゃん、ばあちゃんががんばっていることを認識したり学べる形があったらいい。すぐに効果が出ないことへの評価も必要だと思う。